

機関番号：37104

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19592547

研究課題名（和文）

看護職者のための糖尿病女性のリプロダクティブヘルスに関する支援マニュアルの開発

研究課題名（英文）

Manual Development for Those in Nursing Profession Who Support Diabetic Female Patients' Reproductive Health

研究代表者

田中 佳代 (TANAKA KAYO)

久留米大学・医学部・講師

研究者番号：10289499

研究成果の概要（和文）：看護職者が糖尿病女性のリプロダクティブヘルスのセルフケア、心理・社会的側面の支援ができるよう糖尿病、性と妊娠・出産の知識を含み、具体的内容の「看護職者のための糖尿病女性支援マニュアル」を有用性の検討も踏まえ開発し、来年秋に出版予定である。併せて看護職者が支援のニーズを把握でき、糖尿病女性・家族と相互理解を深め、双方向性のある支援を考えるセミナーを開発した。今後の支援の動機づけやネットワーク作りに繋がった。

研究成果の概要（英文）：

A manual for nursing personnel who provide support to diabetic women has been developed based on the examination of useful practical approaches, and will be published in the autumn of 2012. The manual contains specific information on diabetes and sex, pregnancy and delivery, and explains how nursing personnel can assist diabetic women in reproductive health self-care and provide psychosocial support. In addition, a seminar has been developed to help nursing personnel appreciate the necessity of providing support for the needs of diabetic women, to deepen mutual understanding with diabetic women and their families, and to address bidirectional support. This will further motivate nursing personnel to provide effective support, and contribute to the development of networks between nursing personnel and diabetic women and their families, between nursing personnel themselves, and between researchers and nursing personnel.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：母性看護学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：糖尿病女性 リプロダクティブヘルス 看護職者 マニュアル

1. 研究開始当初の背景

(1) あらゆる世代の糖尿病女性の増加

我が国の糖尿病患者・予備軍の増加、小児・思春期発症の2型糖尿病の増加、小児期

から成人期にかけて幅広い年代層で見られる1型糖尿病患者などの状況から、あらゆる世代にわたって糖尿病を持つ女性が増加しており、その性と生殖の機能はライフサイク

ルを通して糖尿病であることで多大な影響を受けることとなる。

(2) 糖尿病女性の性と妊娠に関わる問題状況

糖尿病女性の妊娠・出産に関する医療・研究は飛躍的に進み、良好な周産期予後を保つことが可能となっているが、糖尿病の患者教育において、糖尿病と妊娠等についての系統的な教育は行われていないのが現状である。我々の先行研究でも 58.5%の者が計画妊娠ではなく、妊娠中の胎児の健康を心配し、血糖コントロールも困難であること、出産後の子供の健康を 79.3%の者が今で不安に思っている等の妊娠・出産に伴う問題状況が明らかとなった。未婚者においては、糖尿病であることが理由で結婚や妊娠・出産は困難であると受けとめ、少子化の時代において、子供を望みながらも子供を持たない状況が明らかとなり、糖尿病女性のリプロダクティブヘルス（性と妊娠・出産）における QOL は十分保てていない。

(3) 糖尿病女性の支援に関わる医療従事者の状況

我々が 1 型糖尿病女性の診療・看護に関する医師・看護職者 758 名を対象に平成 16 年に実施した調査の結果から、問題に遭遇した経験や性へのタブー意識が看護職者の 1 型糖尿病女性のリプロダクティブヘルス（以下リプロヘルスと略す）の意識に影響を及ぼしていることと、1 型糖尿病・リプロヘルスに対する知識不足、対応する場・時間の不足が看護職者の支援に影響を及ぼしていること明らかとなり、糖尿病を持つ女性のリプロヘルスに関する研究や支援が、十分でない理由の一因として推察された。

2. 研究の目的

看護職者が糖尿病女性のリプロダクティブヘルスに対するセルフケアの習得への支援と心理・社会的側面からの支援を実施できる「看護職者のための糖尿病女性のリプロダクティブヘルスに関する支援マニュアル」の開発を行う。併せて、看護職者のための教育セミナーを開催し、支援マニュアルの普及方法に対する検証も踏まえた上で、有効性のあるマニュアルの開発を行う。

3. 研究の方法

(1) 支援マニュアルの開発

① 支援マニュアルの概要の検討

・医療施設の視察及びインタビュー調査：
大学病院 2 箇所、総合病院 2 箇所、診療所 1 箇所のリプロヘルスに関する糖尿病教室の実際を視察し、対象施設に勤務する医療従事者（助産師 3 名、糖尿病看護認定看護師 1 名、看護師 2 名）にインタビュー調査を行った。

・糖尿病女性へのインタビュー調査：
出産経験を持つ 1 型糖尿病女性 6 名、2 型糖尿病女性 2 名に支援の実際、どのような支援が必要であったか調査した。

・糖尿病女性の家族へのインタビュー調査：
糖尿病女性の母親 3 名、糖尿病女性の夫 2 名に糖尿病女性へのリプロヘルスの支援を家族が行えるためには、どのような支援が必要か調査した。

② 支援マニュアルの試案作成

・支援マニュアルの項目案の検討
糖尿病女性のリプロヘルスに関わる診療・看護の専門家 4 名と患者会代表、1・2 型糖尿病女性各 1 名と意見交換を行った。

③ 執筆者の選定・依頼

④ 支援マニュアルの編集・推敲

⑤ 支援マニュアルの試案の評価

支援マニュアルの試案の評価を、糖尿病診療・看護の専門家の医師 12 名（内科医、産科医、小児科医各 4 名）、看護者 6 名（看護師 4 名、助産師 2 名）と、患者会理事 2 名、糖尿病女性 4 名（1 型、2 型各 2 名）計 23 名に口頭・文書で承諾を得てマニュアルと自記式調査用紙を送付し行った。

⑥ 支援マニュアルの完成

出版社を選定し、収集した支援マニュアルの評価を踏まえて追加・修正し、推敲・編集作業を行って完成させる。

(2) 糖尿病女性のリプロダクティブヘルスに関わるセミナーの開発

① セミナーの概要の検討

文献検討や専門家、患者会や家族との意見交換を行い、概要を検討する。

② セミナーの試案作成と実施・評価

・セミナーの試案作成

・セミナーの実施

研究者が企画・運営を行い、専門家である研究協力者と共に実施する。参加者の募集方法を検討した。平成 21 年 1 月に福岡にて 3 時間、10 月に東京、平成 22 年 1 月京都、7 月仙台、12 月名古屋にて 6 時間のセミナーを企画した。

・セミナーの評価

セミナー終了後、参加者、ディスカッションのファシリテーター、講演者へ口頭・文書で承諾を得てセミナーの評価に関する自記式調査用紙を配布し、留置き法にて回収した。セミナーの運営に関わる意見交換をファシリテーターや講演者、支援スタッフと共に行った。

(3) リプロダクティブヘルスに関する糖尿病教室の開発

① 糖尿病教室の概要の作成

文献検討や専門家、患者会や家族との意見交換を行い、概要を検討する。

②糖尿病教室の試案の作成と実施・評価

概要を基に糖尿病教室の試案を作成し、研究者が主体となり実施する。対象は協力の得られた施設、サマーキャンプで18歳以上49歳までの1型・2型糖尿病女性とし、評価は参加者へのアンケート・インタビュー調査にて行う。完成した糖尿病教室試案は、支援例として支援マニュアルに掲載する

4. 研究成果

(1) 支援マニュアルの開発

①支援マニュアルの概要の検討

・支援の主軸となる専門家以外の看護職者は性や妊娠等の問題を持つ若い糖尿病女性と接する場が少なく学習する機会が少ないために支援の必要性に対する意識が低いこと、看護師は性に対するタブー意識・知識が不足していること、助産師は糖尿病の知識が不足していることで効果的な支援に繋がりにくい状況がみられた。支援マニュアルには、問題を抱えている糖尿病女性の実態や事例の提供、糖尿病と性や妊娠・出産双方の知識とライフサイクルに渡った支援の具体的な内容が必要であり、内科と産科の看護職者と患者が共に語り合えるようなセミナーの開催の必要性が明らかとなった。

・1型糖尿病女性は、月経・避妊・性生活・STDに関する知識の提供、内科と産科の連携、妊娠中の心理面への支援、子育て中の家族との関わり、子どもへの糖尿病の告知について、子育てが終わった後の生き方について、2型糖尿病女性は、不妊治療中の血糖コントロール、2型糖尿病の受け止めについて、糖尿病女性の家族には、出産経験のある糖尿病女性・家族の経験談が支援マニュアルには求められることが明らかとなった。

②支援マニュアルの試案作成

・支援マニュアルの項目案の検討
検討された概要を基に表1の内容の項目が挙げられた。

・支援マニュアルの執筆方法の検討

難解な表現は避け、わかりやすく事例等を入れながら具体的に記載し、マニュアルとして有用なものとなるよう執筆を依頼することが決定された。

③執筆者の選定・依頼

研究者以外の糖尿病女性のリプロヘルスに関わる診療・看護の専門家である執筆者（医師2名、助産師9名、看護師2名）を選定し、作成した執筆ガイド、項目毎の概要を提示し執筆を依頼した。

表1 支援マニュアルの項目

<p>I. 糖尿病の基礎知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 糖尿病を詳しく知ろう 2) 食事療法のホントのところ 3) 血糖コントロールの実際 <p>II. ライフサイクルにわたった支援の実際</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 結婚までに <ol style="list-style-type: none"> 1) 月経について大事なこと 2) 話しにくいけど大事なこと ー性行為について 3) 避妊をもっと詳しく知ろう 4) 知っておきたいSTDのこと 5) 恋愛・結婚を躊躇している時に 6) 妊娠ができるのだろうかという不安に伝える 2. 結婚から出産まで <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠と糖尿病の関連とは？ 2) 不安なく妊娠を迎えるためのアドバイス 3) 妊娠を望んでいるのに妊娠しない時に 4) 妊娠から分娩にかけ支援ができるために 3. 出産してから <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもが乳児のときに 2) 子どもが少し大きくなってからのこと 3) 子育てが終わってから <p>III. 糖尿病のタイプに応じた支援 糖尿病のタイプに応じた支援を考える</p> <p>IV. 糖尿病女性の支援システム 妊娠まえからの支援システムをどう構築するか</p> <p>V. 糖尿病教室・セミナーの試案</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 糖尿病教室の試案 2. セミナーの試案

④支援マニュアルの編集・推敲

研究者にて編集・推敲作業を行った後に再度、執筆者へ修正を依頼した。

⑤支援マニュアルの試案の評価

調査用紙を18部回収し（回収率78.3%）、17名がマニュアルとして使用できる、1名が少しできると回答した。少しできると回答した者の理由は、「患者さんが使用する際には難しい文言がある」との理由であった。評価を依頼した医療専門家は皆其々に糖尿病女性の妊娠・出産に関するわが国での第一人者である。「今迄にない具体的な内容で多くの糖尿病女性の支援に活用が期待できる。」「これまでの書籍にはない切り口から、性に関する詳細な情報が語られている。」「糖尿病女性に限らず全ての人に知ってほしい内容が多く大変有用な方になっている。」「患者さんの立場を理解するのに役立つ書である。」などの高い評価を得た。また、「言葉の使い方等に改善必要な箇所がある」等の書籍にするに当たっての具

体的なアドバイスを頂いた。

⑥支援マニュアルの完成

出版社を選定し、収集した支援マニュアルの評価を踏まえて追加・修正し、推敲・編集作業に入っており、平成24年秋に出版が決定している。

当初の研究目的を達成する支援マニュアルを開発できた。このマニュアルは、糖尿病女性の性と妊娠に関する支援の経験が少ない看護師や、糖尿病に苦手意識のある糖尿病女性の妊娠・出産に関わる助産師、性に関わる支援は難しいと感じる内科医師、ひいては糖尿病女性自身や家族においても使用できる実際的なものとなったと思われる。今後は、糖尿病女性の性と妊娠・出産に関わるより一層のQOLの向上に向けて、このマニュアルが多くの医療機関で使用され、この分野に関する支援・看護の基盤が形成されるような取り組みが必要とされる。

(2) 糖尿病女性のリプロダクティブヘルス

に関わるセミナーの開発

①セミナーの概要の検討

糖尿病と妊娠に関わる知識だけでなく、実際体験した糖尿病女性の体験談、糖尿病女性・家族と看護職者が直接ディスカッションできる双方向性のあるセミナーが必要であることが討議された。

②セミナーの試案作成と実施・評価

・セミナーの試案作成

概要を基に研究者・研究協力者でセミナーの試案を作成した。

・セミナーの実施

看護職者のリプロヘルスの支援の意識向上のための教育セミナー「糖尿病を持つ女性と看護職者のためのセミナー」を実施した。目的は1型糖尿病女性と家族及び看護職者が糖尿病女性の性と妊娠・出産について意見交換を行い相互に置かれている状況を理解し、共に考え、1型糖尿病女性と看護職者の双方向性のある支援の在り方の構築に繋げることである。参加者はNPO法人日本IDDMネットワークの会誌・HP、日本糖尿病療養指導士認定機構のHP、日本糖尿病学会誌等で公募し、療養指導士認定更新の研修単位(2群2単位)の認定を得た。平成21年1月福岡(福岡のみ1単位)10月東京、平成22年1月京都7月仙台、12月名古屋で実施し、併せて1型糖尿病女性66名、家族23名、看護師33名、助産師17名、管理栄養士3名、医師4名の参加を得、講演・グループディスカッションを実施した。仙台・名古屋でのディスカッションはそれ迄の評価を踏まえ性と妊娠に関する5つのテーマ(月経について、性

に関すること、将来の妊娠・出産、今からの計画妊娠について、娘さんの将来の妊娠・出産)から希望をとりグループを構成した。セミナーの内容は、糖尿病と妊娠に関わる医学的知識についての専門医や助産師からの講演、専門医の糖尿病女性の妊娠・出産についての講演、糖尿病女性の性と妊娠状況について実態調査を基にした研究者の講演、糖尿病女性からの妊娠・出産の体験談、グループディスカッション「糖尿病女性が性と妊娠・出産について思うこと、糖尿病に関わる看護職者が糖尿病女性の性と妊娠・出産について思うこと」をテーマに糖尿病女性・家族、看護職者がそれぞれ入りグループ編成し、糖尿病看護認定看護師や助産師であるファシリテーターが1名入り進行し、ディスカッション終了後、出された意見をファシリテーターが発表し、研究者が最終的にまとめを行った。ディスカッションでは糖尿病女性に必要とされる支援として、月経・妊娠の情報提供、患者と医療者が共に対策を考案、気軽に相談できる窓口、母親がサポートできるための看護師の支援、1型糖尿病女性自らの積極的な姿勢等の必要性が話し合われた。看護職者と糖尿病女性の双方向的なコミュニケーションに向けお互いがもう一步踏み込んで共に考える姿勢や、糖尿病女性のライフサイクルをも考慮できる更に一步進んだ計画妊娠の支援の必要性についても討議された。

・セミナーの評価

アンケートでは全員がセミナーは今後に役立つ、共に話し合う方法は効果的と回答した。従来、このようなセミナーは医療従事者、患者別々に開催されることが殆どであった。看護職者と患者双方が同じテーブルにつき語り合うことで、双方の相互理解が深まり、より良い糖尿病女性のリプロヘルスへの支援に向けて実際的で有意義なセミナーを開発できた。

このセミナーの実施により、日本各地の看護職者、糖尿病女性とネットワークを形成することができた。今後は、今回得られた人的資源を基に看護職者と糖尿病女性の双方向性のある支援ネットワークシステムを構築し、糖尿病女性のニーズにあったきめ細やかな支援を全国各地で受けることができる基盤を形成できる取り組みを目指したい。また、併せて今回開発した支援マニュアルの活用をアピールしていくことができる。

(3) リプロダクティブヘルスに関する糖尿病教室の開発

専門家、患者会等との意見交換で素案を検

討し、平成21年8月に熊本の1型糖尿病サマーキャンプで「一緒に学ぼう糖尿病と女性のカラダ、そして妊娠・出産」のテーマで中・高校の1型糖尿病女性と母親等を対象に実施した。アンケート調査は実施できなかったが、若い時から正しい情報・知識と併せて意識を持つ必要性が参加者から述べられた。糖尿病教室試案は支援例としてマニュアルに掲載する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件) (掲載決定)

- ① 田中佳代、中嶋カツエ、永田真理子、青木美智子、和栗雅子、加藤陽子、堀大蔵、1型糖尿病女性の妊娠・出産に関わる効果的な支援のあり方の検討ー1型糖尿病女性・家族と看護職者が双方向的に討議するセミナーの分析ー、糖尿病と妊娠、査読有、11(1)、2011.

[学会発表] (計7件)

- ① 田中佳代、中嶋カツエ、永田真理子、青木美智子、和栗雅子、加藤陽子、堀大蔵、1型糖尿病女性・家族と看護職者における双方向性のある支援の在り方、第26回日本糖尿病妊娠学会学術集会、2010年11月26日、埼玉
- ② 田中佳代、中嶋カツエ、永田真理子、青木美智子、和栗雅子、加藤陽子、堀大蔵、糖尿病女性・家族と看護職者のためのセミナーの効果、第26回日本糖尿病妊娠学会学術集会、2010年11月26日、埼玉
- ③ 中嶋カツエ、田中佳代、永田真理子、加藤陽子、青木美智子、福井トシ子、1型糖尿病を持つ女性・家族と看護職者のためのリプロダクティブヘルスに関するセミナーの効果-看護職者への調査からー、第15回日本糖尿病教育・看護学会、2010年10月11日、東京
- ④ 田中佳代、中嶋カツエ、飯野矢住代、福井トシ子、1型糖尿病女性のリプロダクティブヘルスに関する支援のあり方～糖尿病女性と看護者の双方向性のある支援～、第29回日本看護科学学会学術集会、2009年11月28日、幕張
- ⑤ 田中佳代、中嶋カツエ、加藤陽子、飯野矢住代、青木美智子、糖尿病を持つ女性と看護職者のためのリプロダクティブヘルスに関わるセミナーの実施と評価、第14回日本糖尿病教育・看護学会、2009年9月20日、札幌

- ⑥ 田中佳代、中嶋カツエ、加藤陽子、飯野矢住代、堀大蔵、看護職者のための糖尿病女性のリプロダクティブヘルスに関する支援マニュアルの開発ー糖尿病女性と家族を対象とした予備的調査ー、第24回日本糖尿病・妊娠学会、2008年11月28日、高崎
- ⑦ 田中佳代、中嶋カツエ、加藤陽子、飯野矢住代、看護職者のための糖尿病女性のリプロダクティブヘルスに関する支援マニュアルの開発-予備的調査その1ー、第13回日本糖尿病教育・看護学会、2008年9月7日、金沢

[図書] (計1件)

平成24年秋 日本看護協会出版会より出版されることが決定している。

[産業財産権]

- 出願状況 (計0件)
○取得状況 (計0件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 佳代 (TANAKA KAYO)
久留米大学・医学部・講師
研究者番号：10289499

(2) 研究分担者

中嶋 カツエ (NAKASHIMA KATSUE)
久留米大学・医学部・教授
研究者番号：10279234
加藤 陽子 (KATOU YUUKO)
久留米大学・医学部・助教
研究者番号：70421302
堀 大蔵 (HORI DAIZOU)
久留米大学・医学部・教授
研究者番号：80157049
飯野 矢住代 (IINO YASHUYO)
久留米大学・医学部・講師
研究者番号：50368966
永田 真理子 (NAGATA MARIKO)
久留米大学・医学部・助教
研究者番号：70586908

(3) 連携研究者 なし

(4) 研究協力者

福井 トシ子 (HUKUI TOSHIKO)
杏林大学医学部付属病院 看護部長
青木 美智子 (AOKI MITIKO)
成田赤十字病院 看護係長・糖尿病看護認定看護師

大見謝 真澄 (OOMISYA MASUMI)
成田赤十字病院 助産師
福島 千恵子 (HUKUSHIMA TIEKO)
三重大学医学部附属病院 周産母子セン
ター・母性病棟 助産師
由浪 有希子 (YOSHINAMI YUKIKO)
東北大学病院 西14階病棟 副看護師
長・糖尿病看護認定看護師
諫山 直美 (ISAYAMA NAOMI)
久留米大学医学部附属病院 総合周産期
母子医療センター 助産師
近藤 由理香 (KONDOU YURIKA)
杏林大学医学部附属病院 助産師
林 秀樹 (HAYASHI HIDEKI)
古賀病院 21 医師・内分泌内科部長